

科目名 Subject	色彩学 Studies of Color			教員名	栗本 佳典	
開講年次	2	開講時期	前期	単位	1単位	
必修／選択	選択	授業形態	演習	時間	30時間	
実践的教育	×					
主な学習効果	知識・技能	主体的行動力	課題解決能力	多様な価値観や考え方を理解し、受け入れる能力	日本の伝統と文化を理解し、美意識を備えて行動できる能力	美しく生きる力を実践できる能力
	◎		○	○		
科目の概要	美容をはじめ、デザインの現場から普段の生活の場まで、さまざまな状況で必要とされる色彩に関する知識や考え方について学びます。 色の分類からカラーシステム、配色、色彩心理、カラーイメージ、パーソナルカラー、色彩の歴史と文化などについて幅広く学ぶことによって、色に対する多様な考え方を理解します。また、学習内容の解説を行った後、実際にカラーチップや色鉛筆を使って演習を行います。テーマに沿って自分で考える演習課題を行うことによって課題解決能力を高めます。					
授業方法	授業は対面授業で行う。 ただし、状況次第でZOOMによる同時双方向（リアルタイム）のオンライン授業に切り替えることや、密の分散のため受講者を区切り、対面授業とオンライン授業を併用する可能性もある。					
授業の目標	演習などを通して色彩の基礎をしっかりと学びながら、色に対する知識や認識力、発想力、イメージ力を養うことで多様な考え方を理解し受け入れることができ、幅広く色を使用することができる。同時に、豊かな色彩感覚を身につけることによって、色を扱うさまざまな場面で必要となる、色彩に対する判断力や表現力を発揮することができる。 また、課題提出時に学生と教員で相互評価を行うことにより、自己を振り返り説明することができる。					
時間外学習 （予習・復習）	週に一回は、画集やファッション雑誌・美容雑誌、またはその画像などを見て、配色の比較や工夫、美的要素や画面構成を探り、それをノートに記録するなどして、60分程度学習してください。また、外出した時に店の外装やインテリアの色の使い方などを観察して、普段から色彩に対する意識を高めてください。					
教科書・教材	教科書		なし			
	教材		なし			
	使用設備・備品		なし			
	参考文献		なし			
評価方法	提出課題の理解度および完成度 8 0 %、授業態度 2 0 %					
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。					
学生へのフィードバックの方法	個別に実地指導を行います。					
履修上の注意	なし					
本科目履修と関連する資格	資格名	色彩検定（A.F.T）				

授業計画			
	授業内容	到達目標	時間外学習・備考
第 1 回	オリエンテーション	色を感じる仕組みや色と人間とのかかわりを理解し考えを述べることができる。	
第 2 回	光と三原色について学ぶ	色料の三原色や光の三原色など、色を再現する仕組みを理解し説明することができる。	
第 3 回	補色と配色について学ぶ	美容のさまざまな場面で登場する補色について理解し使うことができる。	色鉛筆使用
第 4 回	対比、同化と色彩心理について学ぶ	色と視覚との関係を知る。また、色が人の心理に与える影響を理解し応用することができる。	色鉛筆使用
第 5 回	色名について学ぶ	色名の成立について理解するとともに、色名を考え発想力を高め応用することができる。	ポスターカラー使用
第 6 回	三属性とカラーシステムについて学ぶ	正確に色を分類するための基準を知り、微妙な色の違いを見分けることができる。	カラーカード使用
第 7 回	色彩のトーンについて学ぶ	明度、彩度から生まれるトーン分類の方法を理解し、使うことができる。	カラーカード使用
第 8 回	トーンとイメージについて学ぶ	トーンとイメージとの関係を理解し、さまざまなイメージを作成することができる。	カラーカード使用
第 9 回	配色法①基本的な考え方について学ぶ	配色の基本的な考え方を理解し使うことができる。	カラーカード使用
第 10 回	配色法②効果と調和について学ぶ	配色の効果や調和を理解し使うことができる。	カラーカード使用
第 11 回	カラーウォッチングおよび色彩再現について学ぶ	さまざまな物や自然の色を再現することで色作成の力を高め、色彩表現することができる。	色鉛筆使用
第 12 回	イメージワードと色彩との関係を学ぶ	イメージ作りに必要となる、色の表現力を身につけ実践することができる。	カラーカード使用
第 13 回	パーソナルカラーについて学ぶ	ベースカラーおよびパーソナルカラーの基本的な考え方を理解し説明できる。	カラーカード使用
第 14 回	年齢による色認識と日本の色彩文化について学ぶ	年齢と色認識との関係、および日本文化における色の特徴を理解し応用することができる。	カラーカード使用
第 15 回	色彩表現と色彩構成について学ぶ	色彩表現として色彩構成を作成し表現力を高めるとともに自己の作品を解説することができる。	色鉛筆使用